今人手鑑發句集

夏二

へ 5
2089
2

京都帝国大学図書

利5
門へ
帥 2.084
2

今人千題發句集卷之上

梅室 素芯校正

木ノ葉

小橋朱ら俳入先是八多い名 茅古
俳入先名ら屋の表門名 茅古
いと入のもしよりも長キ名 芋帆
俳入のように仕用よつくら白名 四方

俳ノ

かノ長ら郎

四五條の中ゝうゑるや。のきう炭　仁貴
ゆきゝの白雪降り飾り迄　天山
つくゝの雲おりしろきうゑう哉　素雅
飾りつく夢きくうまり飾り蓬　石三
伊勢もゆ夢ゝ伊勢や飾海老　梅上
ゆきう俳句伊勢の俳も思ひう　復物

門松

門松や陸奥の松の老まう　例堂
いまの奥や老ゆる人迄う　越長
門松ゆきいの高きの宋八　一雅
門松ゆうれてゝ云ふ伝　相人
門松やゆきめて妻を尋ゝう　ゆきゝ女

掛鯛

この年鯛や伊勢ゝ海老迄　山影
掛鯛や皆ゝ年ゝ入百加　茂古

書初

書初や仏の名ゝ不必ず　
書ゝ初一年ゝ書ゝ仏八　百壽

数子

数の子や毎年ゝ遠き新包　花客
数の子や一ゝ度の嘗加　屋我

飾焚

板口や一ゝ一物の飾ゝ　物茂
焚一ゝ門屋やゝ焚　新里

術杖

重厚の物もあれど術杖は
手杖や力余りて杖もつし

震

震も表表に出る人アリ
手出て歩くよ体のやうなる人
引出の物なくもなる人
重きもつくまの手もくもし人多
四五人八回一梅杖よりつ
二度続も度毛や門の上
まを出て手もつ梅の花
春たるる弩のつ毛なる人

獲物
機械

大梅
欣志
甘包
一雅
包古
蒙水
梅通
獲物

陽爻

陽爻や杖の法目のゆるもおし
禁大きも陽爻のもの山家小
陽爻ドクもよ硬し犬の毒ら
陽爻や物の遠つあ一重の乱
年ちもよ千て陽ちう梅の庭
陽爻や古書の妖の衣掛係
陽爻ドやて飾よる門の庭
結為ちう陽爻のイる杖ちう

一帆
蒙長
苣九
影右
梅敬
柳童
源峠
梅家

夕濃よ一ちもや屋の陽ちう
十ち千陽ちてもちし他のう

白紀
梅山

帰雁

桂

過ぎ行く雁の声かすかに聞えて
横雲の末遠く消ゆるや
霞の間に月の光しのぐる
夕暮の遠山ぶりこそ
うきぬ乱山よ雲こそ桂なれ
末枯をつぎ寄せて雪の八つ橋
つき山の紅葉よりも桂なれ
青葉を一時うつす時雨
松の千年陸五十年桂
うく桂きハ予が初の寄物

茂雄　白雨　西曙　青雅　卓池　風船　梅辰　のぶ　梅僑　廿白　廿囊

花仏　旭楽　春松　春化　梅窓　尺外　重戈　戸高　梅窓　重庵

重ねつつ柳よりおくれ桂
白雪の出て春の桂
夫行や桂ぶりの他に
翅板の春よりもこの家
毎年つつ枯葉ふるこそ赤桂
千年ふるハ春の花ぶつ桂
嶋尾ゆるるよハ数ふる雲赤
引ぬけ春ハ出元ふる人ぶり

海棠

海棠の紅の春ふるこそ
海棠やしのぶてふきぶるの

杏花

百花の杏赤し花の宮　見外
雪踏堂杏のむしろうさぎぬ　杜有

何時も百花のうきくさ丸
人里よりて微しや雪しきき　梅逸
桑市もしらしらと雪の降る時　不年
旅人の所をしてうる雪外　白雪
嗜きうる雪や一番も白の雪　東園
雪食

雪食や一番の白の雪　光外
雪食や一番の陰　東宝
雪食や一番の陰　逸流

貝寄風

貝寄や一きうり止て松の寄　山影
貝寄や一面るよ長き楼の陰　唐雨
貝寄の風や一陽の白雪　好春
貝よりのきうの伸る小松外　光東

かり春之部

一人春てうやまの見うり懸の井　屋外
陽炎うの白懸つぬ小百姓　卓池
麻枝屋の門前の陰四外　光武
雪寄つもの雪うり懸の井　蕪雲

懸崖

新懸崖や一文字の夢の覚め　顧言

牧屋絵や一百の人も安保き　秋雪

この中を絵か識きまう法二歩三歩　岩崎

人もあき懸よりの生活富屋小　松井

法隆のもあるて英雄もあり　梅童

柿の花

白一つて英雄もあり柿の毛　一隆

水識りも法一隆地や柿の毛　万像

明書や一新毛一の柿の毛　得巷

別木稜小屋八荒りしのきの毛　仙里

素風

醤屋

北海醤や一識の一つきし法一つ　鶴雪安

この毛毛や一苦毛の毛　大梅

湯槽

廣隆の槽で行るのは家多者　屋敷

山保一行の峰で一つの人で者　槽山

倩毛行の廣毛廣隆槽　倩達

家毛多行りで一水の者　東明

行の毛八家毛毛毛毛　義山

畑毛毛畑毛人毛毛の人で者　岩梅

二度行りでる八峰行家者　秋谷

家毛者温泉の湯安毛八茅　義古

係毛立一文菓子一家者　東沈

白の手長人形を結ひ付る　養机

この形り杉板にて長さ五寸巾
五分厚さ一寸五分脚を付ぬ
脚板を付ぬ脚の間の横板
この形り杉板にて長さ二寸
脚板に柳の枝にて長さ
脚板に柳の枝にて長さ

蝙蝠　見台
蝙蝠を付ぬ脚の間の横板
蝙蝠に柳の枝の長さ
蝙蝠に柳の枝の長さ

何畳　花瓶
何畳より陸の高さ五寸
何畳に多くて高さ小板
何畳に陸の高さ一寸

水瓶
寸法
四脚

風蓋
蓋一つ元来は木の皮にて風蓋
にて作りしが今は木にて風蓋

結元
結庵

牛車
牛車に注の板門柳白
蓋の高さ五寸牛
車の蓋の高さ

柴白
柳玉
柳垂

牧
牧の高さ八寸牧の
牧の高さ八寸牧の
牧の高さ八寸牧の
牧の高さ八寸牧の

柳玉
柳玉
玉柳
民賀
養机

自の宝只主の為る牧者なるく　梅宝
什麻と鈴を多くの牧者なる小　卓池
備きぬやうの水うの牧舟小　一雅
考つきよ牧者も考やもるの自　蓮等
為るの時〳〵鄭人牧やり小　梅悦
遠船も一人住者の牧者なる　妙柳
考多くきもの毎の考集　六雲
牧者やわ〳〵きの松の自　梅巣
住しやわ牧者よりくく茶荒　自信
世侍もなく牧者小　石啓
つ茶年夕めの時の牧やり小　龍壺

牧遠火

牧者家も牧者の夕重小　可嘗
麻正て家よ住人牧やり小　耕烟
形四る多人自牧者なるく　蛙雅
緑きを足遠の牧者小　石啓
一つきこきもの牧やり小　蒼机

牧者

牧者やきやう侍し本の戦き　松付
牧者のうまを四きる古井小　一保

飾甲

下の考て足てきう甲にきを　一雅
侍多の飾甲牧やり山の長　白安

るの子

乙亥
仲月

麻の子

一帆
素堂

柏

一隆

鯀

仲月

帷子

素堂

門柏

雁皮

形代

社若

問うや中宮生うつの小屋の義　義白

石屋咲や白もきうぬ伝の糸畑　義門

ゆうとゆくの行る畑や一房枝咲　鄭里

形代よ傍て撫を下りうし　義雄

ゆうしろや一巻くもうて屋者　白松

社若も結て有る葉の榊小　紫汀

榊葉や一つ枝くてうらうと　東洲

つゆて咲を曙や社若　成切

宮舟の形八隆ゆし巻ゆむ　古年

等のゆてりるや牡若　義負

葉ゆて春ゆてゆうとうとうと　物意

咲ゆめる形や白隆る牡若　金庵

牡を巻て毎よ巻うとうと　一朱

宮よ傘ゆうとうとゆて巻や社若　学葉

かノ秋うと郭

梶一葉ゆうとうとやるうと庵隆し　屋机

梶の葉や白の形ひゆうとうと　石屋

白のものもや人よ巻ゆ曙ゆ巻ゆ　素山

巻ゆうとゆ形や梶のうと表　徐子

梶の葉

門茶

運寿の丹精見ゆる門茶かな　太山

さめる間も精の見ゆる門茶哉　鶯扇

貸小袖

この小袖てふ侘しくの手向かな　大梅

一日ほして身にまとひけり貸小袖　松竹

蟷螂

蟷螂や力にまして水の上　大梅

この前よりや斜てみる的に違ひけり　遠字

扁なる儀の手をつくしけり　菖丸

このしろ

這て見て又出世魚の名哉　松月

きぬしろのしまなき秋のかきくさ　一鴎

烏瓜

我秋は萩の葉末のつる瓜　大梅

露うけし閑の家根のつるすかり　菖丸

つる長く瓜咲方に倒れけり　石居

風寒き竹の梢のつる瓜　素赤

貝割菜

桂の土の水気にもたれ貝割菜　鶴字女

貝わり菜錦の露かゝりけり　仲白

居の前義枝す升をゑね秋気　見邦

魚ぞ岸の先の露おきり年の葉　自昌

雁

尾ぬくや空から白飛る月の雲　梅齢

漂田へ竹ら落る雁のなかくかし　帝柏

岩さりとて入新たり月の戸　雪之

尻くるや山も恙しし白の雲　竹風

白鳥き門の名残りや尻の雲　信

暮れ火さる遠のうつかや行くる雁　卜羊

栃〻紅葉

こまかに瘦尻ゆる山路や栃しかまう　儀物

赤みしても漆もやまありし栃紅葉　可今

柿〻

家よりも柿の月まくらつ山村かな　稲倹

山路や一箱の柿まつく稿　素史

蕎麦

蕎麦くれや毛よ茎をれ　波路

蕎麦はまくらも秋の山にかりく　鬼外

芥菅や漂畑とりも同し色　和丈

かノ冬之部

神無月

冬るかとはるき枝や神無月　亮伍

しかし村も寄嵐に梅て神無月　宗二

見くらも構の尻ゆるや神無らく　葉三

水新に尻ゆける枝や梅り花　梅山

帰花

咲ば咲もあるまじき身の帰り花　暮雨

柳の葉しぐるゝ日つきや帰り花　必山

枯柳

柳かしゐるゝまで有り枯柳かな　派風

ちらぬ身も一擦柳かゝりの老柳　道松

白より月夜の淋し枯やなぎ　董嫌

櫁の花

山寺の鐘中ふるふや櫁の花　逢流

櫁の木の下草しげるさうり　卯月

冬しらぬ花のおもかげ枯尾花　李池

何所までも海の入ゆるや枯尾花　其偉

枯尾花

見よ寝て暮しまく尾花も枯ゆけり　墨農

踏ふ出さやうす野山の枯尾花　竹作

いつ尾花よく旅訓て枯尾花　祖白

峠くる行月秋まへよし枯尾花　稜歌

降すくる雨の光りやのまゝ尾花　桂琳

枯まで穂をまとふ尾花かな　梅室

枯芦

枯芦も様も中老ちるや汐のうら　北亭

秋よりもあまつする音して枯る芦　有木

山く五里海く十里枯野哉　梅室

眺め降し亡の如くやその辺　巴陵

枯野

秋の末人よ四季に枯野うれ
雪霜の多くて吹きに枯野人
葉も共の去るこの春の来る
枯野なる人の色野よまうう

柳加
藍古
糸瓜
素堂

何しを野吹
侍し峰寒
水筋八四るく
終鴨や四く

然し
旭春
みれ
亀越

立命の相者
よりよりて自
鴨吹や鶏の

可交
古年
自古

鴨

元の影よ戻りて
地を隙のきく
うら池よ自の

小亀小
甘蔗
松園
甘瓜
相亀
新

下し出て一四
亀多くや
屋よ多の

一旭
林居
白波

亀多くや抱
亀多や出て自

蔗庵拐子の世侍しなれ蔗の雪
笑て生八人の原多四合う
名つうね八ぬくう考無紙る八

柳煙
乙古
完蔗

紙子

紙衾

綻ひの糸引通し衾子は　一雅
白よ見て住む神る紙子は　梅室
見苦しめてしるもの紙子は　柳嶋
ころまりてしよさゝ夏見八や紙衾　芳文
旅のさみねよ寺八旅して夢重　法風

神送

草木の色の白に枝や神送り　仰月
風わくのともきる雲や神送り　渡鶴
書きたし跡送し帰り神おくり　楳歌
右よ向て鶴のうらおや神の留守　暁葎

神の留守

出てみきや和ゆるゝ神の留守　雲人
荊棘の穂の芽ふきや神の留守　永久
神の留守笑の清水も流れけり　鏡湖

神旅

吹降のさゝくみく神の旅立ちぬ　雲靄
神の旅からく夜明白の降りける　五耕

神迎

君掃ぬ雪を出て掃て神迎ひ　露汀
新藁よ清めの白やしの迎ひ　台鳳
神迎ひみるまで来よける石菓小　山外
新まりも一つ余りしのこもりし　阪年

神楽

白雪の外よ神楽乗やからす尾峯の白　雪之　峰白

乳くらしの橋月て歩行かう　東く

橋や一つ月よハ秋ぬはきくろ　仁里

雪の入

雪やの中少雪よ時くる雪の入　大梅

雪入や扨一雪しの石庵哉　北山

うの入の入佐くく袖を若書う　秋瓢

山角うと烟りの迫ゝ雪入　百像

春月の水よくくるや雪の入　玉岡

雪雨

庵よハ雪踏まくる雪の雨　一巡

雪よ佐ゝて降ゝ雪の雨　東皐

蛙

我稿よ小て鮭蛙の行雪ゝ　蛙流

うら蛙ゝうる杉仁の竹月　一舵

雪雪

雪雪ゝ大井京のるまく氣　雪之

雪雪や男ゝ月みまくる秋井　いて女

雪雪ゝ馬や伸ハ多の峰て作　一舵

雪雪よ後ゝハの雪ゝう　一帆

蛙水

ゝうくくう蛙水るるや俤社上　き俤

月の外物のきらやかなる　小鍋

[illegible]　百山
[illegible]　花谷

[illegible]　蓋の[illegible]の一もと　苣丸
[illegible]　一地
[illegible]　松葉
[illegible]　桂志女
[illegible]　見外
[illegible]　五蘇

[illegible]

[illegible]　[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]

餅井夢

紙せて上る夢柏や飾り松　一鈴
門松を夜の雪まで夜てのさく夢　侯世

亀元

亀元よりつくしのもや角付物　葉園
のみすよ信者て面白机うめく　聖葉
亀元や鈴くりかし紙くきき　重紙

素菊

素菊や咲くるとしまつ土ゆの　垂宝
きくや夜の角度の葉二合　長名
素菊まもろ織灯のうつつ　一柏

二度信て変えるうつつ　昌風
ちろりて信て信ほや二つつ　怪歌

貝焼

貝焼や面白もちろ赤つる　南枝
貝焼や世をのつる信仕つ　露元
貝焼や書るる移加織　山雪

よノ夢くそ都

焼まる結をくれてつき余素小　卓池
夢不二の乃や余素の踏改　怪女
梅梅ノ夫まる文るよんあく　玉子

余生

俳諧会のつゐて相よもむ余生を乱
発句業の風よりうるる余生八
生うつりもるや余生の市町
大空のゆきもも付し余生八
もしくの縁より者の余生を乱
縁しまの丁度行くもと余生八

一桂　余生
一雅　梅傳
蒼虫　風郎

嫁菜

梅考より乱八ゆき嫁菜ゆく
行くしくと乱て梅考し嫁菜八
幾生もるる乱行る糸や一味ゆる
考ゆ考しゆ者こ考しと思しゆ

兎仙　嫁菜
百寿　一傳
一の大

考ゆる梅考糸のゆくや咲ゆる考　田代

よノ色考新

よ切

よ切や赤羽ゆく保先考　水郷
よきやゆ角考ゆる西町し　白鶴
よ切や保し梅考よ考ゆ乱　千代多
よ切や考の行きてもゆ角　象雅

よノ秋考新

旅筆屋のゆんきつく考八　良輔

秋意

由緒茶碗より秋の秋意うれ
稲穂八月の色染き秋意う車
ちつくしと名切河の秋きも小
風名高に書を秋意の書を物
一人ゆう二人秋意ゆき一面い
遊子峠茶屋や秋意の町まつれ

秋柳
物意
の石
白舞
由紫
号意

よりあを秋

秋の夕

行る人を撲よ秋意るや秋無り
秋無り鬼ゆ組んゆ命り元
秋無り月の月のうをうを小

南竹
山伏
子等

たゝ夢ゆ郎

夢化して物ゆ秋や白鳥
夢化して時ゆ秋ゆ白鳥
夢化して角ゆ人物秋

仮仏
色光
雑雲

大勢のゆゆ人も居ゆ
舟の名の八の月て内橋の居郵
ゆ伝ゆの沓ゆ伝て立る郵

烏啼
苔九
頑水

居郵

夢化
物ト
秋

種他や物考ゆの紙の秋

而居

種蕎

種蕎やうは度よき畑を耕し和肥を
ねかせ置て種を蒔ける事なり
肥料は糞や魚や草類種俵
尺外
よく実入りて多き四月に成
熟四月一番蕎こなしの時
の事なり原て尺に八四月花
咲しと四月一時生ず金業
成可
傳て後うゑ合して種蒔し
まき出てなの出を待や種郷
名外
多年の事なれやうね郷
一畝

四月

種郷

種魚を拵よつけるやうね郷
ねりしの事なれて種蒔し
良深
桂志安

蕎麦

まき蕎麦の麦や魚をまき
物幕のうえ八朱出や蕎麦
南海
獲物

大根花

麦出しや大根の毛を咲出る
門蔬菜て実咲大根ふく
柳壹
蕎麦

蒲公英

多ん方よ物戸一口の出茶屋
蒲公英やうるのまきも学後年
名外
寿九

たゝ高くこゝ都

笹いとゝ竹のまゝくれゝ竹まるる　紫山

笹をかるうちもたゝぬ小雨小　義石

竹のまや蘭のもゝハ只寒し　芝存

笹や晴るまゝきよ二三尺　只外

こゝ竹のこゝや竹まよまて長こゝの　梅令

蔵こゝよ竹のまるかるや時ゝ庵　布柏

楊や雲付てゆる小笑より社　由聲

こゝちはるや鮮義して西楊の春　葉静

楊や陰きもあぬ楊の白さゝし　見外

せまるや菖の玉巻沮社乃　紫月

菖のこゝ化玉まゝ葉まるまる小　雅蔵

竹の葉葉

晴きつゝ生つゝ生の竹の葉葉小　蓼芽

竹象社葉葉義の把一小　護物

端午

こゝき木のこゝ化葉まる端午小　山外

蜂よ生こゝ月て白ゝき端午小　葉葉

四神こゝと防や生物の神こゝ　緑竹女

田植

植に出し田の先よりの晴　嵐和

うゑ方の田に気もつくや松と家　雲底

門栽土ハ田の植やうの善り〳〵　逸騎

四方から見返す家や田植笠る　小年

見おろして白みゆく〳〵田植哉　去礫

植代に杉本踏込原田の郷　卓池

寄せて先傍焼この田を暮　竹嬰女

筍

筍のへりは家に萌よりくる　雲底

下さるは行くにまかし筍　松什

引かまもぬ火入の奥や月あかり　多代女

田草取

芝井へ出て休みけり田草取　仁里

白妙をぬくへ一ツや田の草取　文之

ゆふぐれと搔て家に出る田草取　信元

弟の名や年よりがへ田草取　栄徳

玉祭　生身玉

おし一ツ据えて玉まつりまつる水　僊物

玉まつる家や芭蕉の一葉より　卜年

並べ或葉やおもまくらに思ふ　可濤

たゞ秋と秋の影

秋につや日の寄しき様のお書　寿山

立秋

来秋に何もつゝきて惜しまれき　遠流
戸の外ハ秋たつ音の白さかな　路一
秋たつや寐ても一ト夜ハ鏡とき　梅居
秋たつや勝手の隅に靴ならぶ　梅吉
秋来やおとろへ見ぬる我餅　梅室
灯ともさハ秋たつ窓や植木市　万外
秋たつや未刈し稲に八幡の音　蒼虬

七夕

七夕やいなかに出るの青簾　梅節
七夕や舟に客着く... 　織蔭
七夕や小袖かさねたや色まうら　至遊
七夕の萩にて体まであふれし　何二

七夕や秋のともし見える扇　乙良

大文字

闇ぬれし... 大や大文字　梅通
賀茂川の底も光りつ大文字　秋雪
大文字の消て淋しき秋の...　素柳
大文字のうつる光や六月の陰　尾外

龍田姫

秋の色の... 立ちや龍田姫　大山
... 　巳角

竹の春

垂... 松や竹の春　塩池
... の竹の春　一湾

煙草

菊の名ばかりなる新や行末　乃松
風の吹千葉まばらつゝ蔓　一俊

玉柳の二葉にのうつや白赤き　凡外
蔓くるや柳一面て柳　呂国

玉柳や蔓より白て柳　好甫

蔓柳や蔓の名ばかりなる　一旭

蔓柳よ大きく西に広小　竹白
蔓柳くの蔓る白かの赤く　風舟

柳絮

ちらちら雪柳絮の二人乳　仮安

柳絮やしらるゝ新の家　一秋

傍雪の赤くなるや四面なる　蘆舟
手柳雪て注つくや四面の雪　一桃

蔓の花

蔓を植つまも蔓の名不　徳之
土角傍の手の傍や蔓の花　素風
傍見毋傍しよ角なるその花　大林

四荊

松山の形なるを蔓四荊　素庵
綾近一荊四の上の赤の面　乙吉

煙管

蕣[illegible]煙管　蒼虬
木や[illegible]春の深さや[illegible]　卜早
[illegible]の橋を照しけり　西暉
色あさき柚の一ツや[illegible]　花小
[illegible]　其儁

大力の魚

俎板に[illegible]大力の魚　卜宇
味も[illegible]人に[illegible]大力の魚　草笠
俎板の[illegible]大力の魚　山方

九ノ冬之部

大根引

[illegible]大根引　布國
[illegible]大根　一雅
大根引て[illegible]　花渓
つけて行る大根[illegible]　鼎左
[illegible]大根[illegible]　一地
[illegible]大根引　月堂
大根引[illegible]　貞稲
大根引て[illegible]　布治

炭竈

消てまで[illegible]　草笠
留守の[illegible]炭竈[illegible]　素史

鶯

約て行る鶯よりるの声を聞ハ
表行乗の中をつきの鶯の小
まつ鶯や　ちの花ちるの頃

文門　宗山　我房

鶯の一句立
小一日鶯の鶯なる小
谷百や鶯くまる鶯の
鶯なて我者鶯る鶯小

相古　天山　梅屯　小鍋

牛蒡

ちの花八ちるまつ牛蒡小
松の実なけて居る牛蒡小

表水　和柳

遠ヶ志

遠ヶ志ハ雪ハ消ぬまつ
ちるまつ居や居の居なる峰の松
遠ヶ志や一年寿の美のまつ二三本
遠ヶ志や名ハくつるも梅水仙
つま志や吹仙もなるよ懐子

内路　玉蓮　柴人　芙山　古山

玉子園

伝人のよ病よ度や一ちる風
人の為ね表八志つのまつ風

青古　梅山

陽傷

牛蒡なて嫁よ手る風傷小
梅のさくら散ちるまつ小
ちるさめぬ風傷まつ作のさめ安き

梅屯　豆腐　石傷

仏ノ姿ヲ新

ケケラ礼者ノ高サヤ雖ヲ有リ　大梅
唐ヤ一ツ夏ヲ付テ来ル徳者ハ　小字
蛾ハ程丁寧ヲ来ル礼者ヲ礼　梅ヲ
矣袖ノ礼者ヤ通リ阿　寺池

徳者

連発ヤ一兎ノ花ヲ、　安山
連翹ノ葉ハ花ノ前　菩提
連発ノ花ヤ迄キ来ル水　左京
連翹ヤ去ル時花ノ　寺庵

連発

仏ノ姿ヲ新姿
仏ノ秋ヲ新姿
仏ノ夏ヲ新姿

ウノ華ヲ新姿
ウノ姿ヲ新

空豆

空豆の花咲ハ程の事和ノ事　美別
ケケラ豆の花ハ春ノ雨上リ　護物
ケケラ豆の花ヤ皆戸ヲツヲ時　山方

菊花

うの秋くれの部

谷川の落合角やそなの山　古通
七夕の札もまきれてそハの花　其儀
多義やめくらの蔵しさるの毛　濃物
大家をかくまくれてそはの山　野逝

菊苅

夕月や菊書刈しうの山の紙　宣稜
そそ苅や眉よるもそけて宮仕者　梅山

雪車

投打もあくまくまるよるやに雪車の声　俊雪
秋さまく一本垂うう雪車の柴　牡蠣
此奥も人もあるやに雪車の紙　東雲
雪車引て義うるるもるいうう　木上
賊うるくるる形もなりて紙の雪車　完車

つゝの春くれの部

くくくくて屋根物のうの梯子孔　一具
鮮の上ようて皆るるつくくに　芝存
多らくくと春をつくるる梯子みく　尺山

梼

紫州の原大小山つゝ
仰山中高て咲や赤梼
梼も一番つゝぬ山のゝ
高ゝ自ゝ梼高ゝ梼山
梼の高る下の梼の咲ゝ
一ゝ人の梼ゝ梼ゝ高ゝ
梼高ゝ梼山

獲物
秋山
梼高
梼山
蔦札
高外

綱曳

綱曳のゝゝて梼ゝ山の
ゝゝ梼て梼ゝ梼ゝ梼
梼高ゝ人ゝ梼ゝ梼梼
一村ゝゝゝ梼梼の上ゝ

梼山
梼山
梼梼
花無

梅木

梼ゝ梼梼梼梼梼
梼ゝ梼ゝ梼ゝ梼梼
ゝ高ゝ梼ゝ梼梼
梼ゝ梼ゝ高ゝ梼

一色
李渓
静里
梅林
玉山

土筆

梼白梼梼梼梼
梼梼ゝ梼梼梼梼
梼ゝ梼梼梼梼梼
梼梼梼梼梼梼

大梼
一梼
梼路
已有

新年ゝ

注入ゝ高ゝ

芝園

燕

一屋根　懸俄

花もて作りたる夕顔の花八重の咲るを見て　蕪村

花まて作りたるよりこれやつらめ　苔丘

白屋よりかけぬしるは作り花小　梅鼎

菊花

作り屋の庵るやしるる芝月七八　清俊

菊花もて作りたる白菊　素丸

鄉竭

作り屋屋泉よりこれ出て作るこれ　不乗

屋の土うけて根をきつしこれ　魚雲

根て作りつけし垂り岩の上　素風

つけ屋と作る赤はもうるう　雪舟

所山八重の菖蒲きつしこれ　清白

山作りよ和作屋作りこれ　凡外

夕菜の遠まきるつけ小　雪所

一、夏之部

星霜の植物よりこれや微白四　孫池

八株、竹やはるる黄の菜を秀る　大梅

佛るや梅白の花の白い風　流芝

梅の株生しるるや八梅の交　護物

降るきこれ垂柳百交　柳園

梅雨

辻の花

多福寺の小堂を寄せ辻の花
寄せ寄せ寄せ寄せ辻の花
見せ寄せ仏を寄せん辻の花
上京ハ好きも多やせ辻の花

辻間
後物
百寿
山方

つゝ秋うゝ新

人住ハ新ハ住まず山の寿
忘つゝの新まも忘や物の系
うゝ寄せ寄せ寄せ寄せ寄せ寄の寿
夢芳の寿流寄や外物子
寿おくや四つの物の下り上り

芳九
ちゝ安
物寿
無然
乙亡

露

物市の寿も夢うゝ思いうゝ
亜像も備像も寿の主
白のきて寄せうゝ寿のまゝ
忘寿や一寿の寿の鳥うゝ
義寄りるる白はうゝ仏芳の寿
忘つゝの墨亜つゝ寿の寿
芳つゝ寄や寄八芳芳の寿
おくまゝ尼くゝ寄うゝ芳の寿
物門や忘寿仏忘しる舟の外
物寿や寄尼の寿の自山
芳物や芳寿の新も秋物寿

物寿
小年
水屋
新文
白清
素舞
盛寿
物松
物巣
晩松
見外

月

月水よりて八月の雲　茅古
次の百人一首八遠山の月　梅逸
朱や空の光八月の月　一僊
月の舟梓さ行く雲のうつり　栄月
出さ山を月の月　梅之
一世帯八月の月の小舟　天能
月もあきの義ろ秋の月　雪月
月山八秋ふるまあき月秋八　松泉
隈ふくてしめ雲命一月の月　梅宝
霜ふれ八ふと出ふくし浦のく　仙路
今の茅も動ふ行文て秋の月　一雅
秋雲をあて月花の用さ八　森吉

月

月ふるよ出て八月さけるる遠ふ　丈翠
宋村て月ふるふくや山のる　希桐
出ふる月て月ふさふ月の月　柳慌
ふふて宋廣く月の秋月八　静月

豪月

豪もふふ堅ふ秋の豪月八　杜水
豪ゆふる風のふ月の月　梅宝

霧時雨

霧のひつふりしく霧ふ霧　雅竹
霧ふる彩ふ彩ふ山時雨　憶子
ふふる山の霧ふ霧ふ霧　苔九
ひふ月ふ時雨ふく霧の月八　一帆

露霜

蓼

蓼ゆ霜や鳥去遠く蘆老葉蔓　時水
つゆ霜や角ゑうる伝う高　雅麦
霜霜や刺ちらしる杉の後　獲物

蔓い寄ハ石の罪きくり蓼の内　ちつら安
きくり笠ゑ百千蓼の根ねハ　成吉安
恵の手ド笠伝ハの蓼ゑつら　三篤

つゝ冬ゑう部

無屋ゑ侍ゝ二ゑ石蔦の毛　大林

石蔦

石蔦咲や二筋四筋の二筋茎　蔦家
ぬくくきよ咲くゑ陸奥や石蔦の花　大恒
石一ゑ咲ゑ咲くゑつきゑ毛　山外

名ゑ咲ゑ二筋ゑ九月中　吉年
名ゑ咲ゑ咲ゑ咲ゑ九月中ゑ　都文
咲ゑ八筋ゑ咲ゑ九月中ハ　房泉
伝ゑ毛ゑ毛ゑ咲ゑつきんハ　随林

陝中

ゆくきゑ咲や直ゑ水桂を神樹ハ　伊路
二三枝筋ゑ咲つけゑつらく乳　茶古
咲ゑ枝の伝ゑゑ伸ゑ水桂ハ　伝原

水桂

[illegible]　　苔元

綱なくして歩行者のよきを見て舟綱を解て漕出す　尾の安

つる橋を渡りて漕ぎ出す時元　橋の

深ぬきや重年まるくまで上にうつ　山方

ねノ年

[illegible]　　寿雅

年賀

[illegible]　　侯史

年籠や　紙衣をうつ人のよき　卓池

礼

礼や二つうつ二丹の多法法　元外

子ノ日

[illegible]　　一条

[illegible]　　可厚

子ノ日　松

松てのくれるよ雪降子の白小き[illegible]松八めてくまく子ゆる小　象池　蓑机

松屋や雪降てるねこの窓　卓池

家の松うつて八[illegible]猫の窓　雪舟

[illegible]　　一帆

舟の猫何出の[illegible]　　一雅

猫の恋

恋猫や一筋の水ながるゝ人の音　和風
ねこの恋ひのうて長き家の梅の陰ゝ村や　斗門
恋ぬけし猫や蕊ゝよふ一ゝ　柳蓋
ひゝ鳴ゝ行ゝ萩八戒て猫の恋　巴僖
恋猫や見つゝしゝる蕊ゝ　有節
夢ゝの五て毛ゝ出ゝ恋ねこ行恋　松洞
物一ツ下ゝる俱楽の像の前　梅蓋

俱楽

恋ゝきゝ八重ゝ俱楽像　梧雨
俱楽者や雪ゝ蕊ゝ山の音　屋寓
住ゝ来ゝ人及ゝ住ねゝ像　素屋

ねゝ恋者や恋ゝ廣ゝ寺かゝ悲　亀遊
梅ゝて住や俱楽の ゝ ゝ ゝ　梅蓋

白ノ夏ゝ郭

ゝて住ゝ ゝ ゝ ゝ 舟ゝ合歓の花　きく蝶
ゝ歓の花住ゝ代の ゝ ゝ　良輔
ゝ八梅ゝ ゝ ゝて ゝ歓の ゝ ゝ　花古
住ゝ ゝ家ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ　卜孚
門ゝ ゝ蕊下ゝて ゝ歓の花　大鵬
梅ゝ ゝ毎ゝ人住ゝ ゝ ゝの古　世竹

合歓花

楝
雪蓬

虫の音にみて通りけり楝はしも　蒼少

咲きかへりては葉るや待り雪蓬　席尺

引かけし烟もなきに咲けり　甫山

夢生れも思ひきままに咲けり　五巷

其ふるさに節ぞやりけり咲けり　橋莊

ね　秋之部　無題

ね　冬之部

赤きもの見えてさへりや薫一抱　連之

葱
子燈人

葱葉の花かれしほるや祢宜の木戸　獲物

ねぎの香の出家をしたる旅宿かな　眷水

子もちの秋の実を結びけり本結　汝笑

根深も蕪菜の花の咲きそろひて灯人　海外

ながなしても根深なりけり燈人　立之女

家中庭や橋をかけけり子燈人　西方

春之部

ほしし賤てる氷し峰の雪　直稲

ちきるや木綾帰りて植傭　みつり

永きる

七章

[illegible]

七夕の夜の仕業や仏の生　死て女
七くさも七夕まで物よ長き名　林曹
七夕や[illegible]　二丘
七夕を仕まてかし成りけり　茶二

芭蕉

余寒の地も猶ほ七夕ごろ　春岐
七夕や仏まつる庵　[illegible]　都里

名一の[illegible]仕業芭蕉の[illegible]　風[illegible]
神の燒て[illegible]初めるなつかし　菅九
水ふくまでも[illegible]の[illegible]芭蕉小　牛[illegible]
津[illegible]先へ[illegible]芭蕉の[illegible]　[illegible]
[illegible]の尾て[illegible]なつかし　[illegible]
[illegible]芭蕉　物[illegible]

苗代よ近[illegible]　且[illegible]寺　卓他
苗一[illegible]や[illegible]　[illegible]　[illegible]

苗代

苗代や先まきの苗てまきの苗　杉仙
苗しろや田毎に咲るかきつばた　一具
苗代手植る我仙人の苗代も家近し　生字

苗代菓

行くすめと苗代菓の俤とゝ　物吉
行らしと苗代菓よりの茶　雨竹

陸奥と咲や蕗の長さの　孫茶
伝是迄て茶の花咲や伊勢　杜水
茶の花や茶摘まとを八幡の　親と
茶の花の水田よりうる山松の　石鼎

茶の花

茶の花や家居して二世の　一旭
茶の花の縁よりつゝや雨上り　尺山
茶の花や松を先きの園　素仙
茶の花や先ゆる俤しらぬ　桃山
茶の花や行末の松を思ふて　桃京
茶の花をなつかしやゆ松の風　紫帆
茶の花や四八八てんて　一畠　卓仙

梨子花

梨子花や角丁ふくきき梨子の花　甘農
白うすと音ふりはしるの花　紫角
茶を茶て咲ハ事を為れ　俟史
八重のうすりうつるや雨の花　山方

夏

夏木立

夏の月

夏の雨

苗

山にうまれるや苗一把　蕉山
苗代して人の行ぬ田の気　稲鯨

稲妻

てぬぐと稲てみつる料理人　一鮫
つまみつる数の一ツや稲妻　杜鵑
ぬるる人の行て秋うや稲妻　鶴吉女

夏野

人ひとりてくて秋かる夏野人　松園
一ぬるの秋白まと傳ぬる夏野人　迷園

蚰蜒

文字形よ迷て出るや蚰蜒　弓蕉
ちめちり生るやちまち白ひる　古吉女

夏痩

夏痩やまて出しの秋の蝉　春九
夏痩はきの蝉しまる白ひの空　傳書

夏空

夏の空ひとつ雲のまれ行　傳書
ぬるる形まる雲の空　岡東

夏草

ひとり白の花しうう夏の草　仍蕉
夏草や末の子もあき蝉まる　然孝鈴

猫なや白ひまて花遠る　梅京
ちてこや猫ひより葉の青花　青雄

[illegible]　貞山
[illegible]　壁外
[illegible]　彼路
[illegible]　乙良
[illegible]　蒼札

[illegible]　長良
[illegible]　宣稿

[illegible]　牧什
[illegible]　妙物
[illegible]　卓文

[illegible]　清白
[illegible]　已多
[illegible]　小山
[illegible]　松古

なゝ秋と都

[illegible]　美雅
[illegible]　岡乐

長キ秋　[illegible]　卜字

白雪の降て積れる枝ぶり　ふつふつ安

神の田や鳴るの小屋も千本低　美意　貴象

鳴子の雪や苫てふあらふ月　柳橋

曳網て遠き雪のしくしくなるべし

南天

南天や実のうつくしき紫　芝笠

南天やそのうつくしき柱の庭　横山

長白

長白や冬代牛の抜るる

冬白や行方よそつけしよりの山　大佛　西白

冬の部

納豆

牛もあるきて金もまるく納豆哉　昇降

おしの牛の手引きを先納豆哉　文都

古門あく納豆牛の絶えもあく　清白

冬梅蘭

紙ぶすの戦や冬梅蘭ふるい　兄外

梅ぶる此さむしやみのまふの香　第古

ふるふて行るまるる冬梅蘭　義女

ふつふつ新年

らノ春ゝ新春

らノ秋ゝ新春

らノ冬ゝ部

猟ハ

猟ハやまと国のさゝめぬ義の弓　一の箭

猟ハやゝ終よりまる百日　慣　獲物

猟ハやゝ尾上のまゝ時の人　逸富

猟ハやゝゝ咲ゝ月る梅の花　子傳